

科目名	対 象		単位数	担当教科
	学年	コース		
国語総合	1	看護科 コース	4	国語科

使 用 教 科 書 等	出 版 社
高等学校 標準 国語総合	第一学習社

1. 学習の重点目標

学習の重点目標	様々な文章に親しみ、読解力や表現力を養う。 漢字の読み書き、ことば及び古典鑑賞の基礎知識を身につける。
---------	--

2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

	定期考査	平常点
趣旨・基準	漢字の読み書き、古典の基礎知識、読解力、表現力を評価する。	授業に取り組む姿勢、授業中の発表、提出物、確認テスト等で評価する。
評価割合	80%	20%

3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期	四	随想(一)「世界は謎に満ちている」 手塚 治虫 【中間考査】
	五	小説(一)「羅生門」 芥川 龍之介 古文に親しむ「なよ竹のかぐや姫」(竹取物語) 【期末考査】
第2学期	七	古文に親しむ「なよ竹のかぐや姫」(竹取物語)
	八	詩「I was born」 吉野 弘
	九	漢文入門「訓読に親しむ」(一)(二) 【中間考査】
	十	故事成語「五十歩百歩」(孟子)「漁夫之利」(戦国策) 評論(一)「水の東西」 山崎 正和 【期末考査】
第3学期	十一	
	十二	小説(二)「卒業ホームラン」 重松 清
	一	短歌と俳句「清水へ」「手毬歌」 【期末考査】
	二	
	三	まとめ

科目名	対 象		単位数	担当教科
	学年	コース		
現代文	2	看護科 コース	4	国語科

使 用 教 科 書 等	出 版 社
標準現代文B	第一学習社

1. 学習の重点目標

学習の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> 近代以降の様々な作品に接し、読解力、思考力を養う。 漢字、ことばの学習を通して、語句の定着を図る。
---------	--

2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

	定期考査	平常点
趣旨・基準	<ul style="list-style-type: none"> 本文の流れを理解し、現代文の鑑賞力を高める。 基本的な漢字の読み書きができるように努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 漢字書取の小テスト ノート、課題の提出 授業に取り組む姿勢
評価割合	80%	20%

3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期	4	『私』という『自分』 鷲沢萌
	5	「デューク」 江國香織 【中間考査】
	6	「新しい地球観」 毛利衛
	7	「永訣の朝」 宮沢賢治 【期末考査】
	8	「情けは人の…」 俵万智
第2学期	9	【中間考査】
	10	「ナイン」 井上ひさし
	11	「僕らの時代のメディア・リテラシー」 森 達也 【期末考査】
第3学期	12	こころ 夏目漱石
	1	【期末考査】
	2	問題演習

科目名	対 象		単位数	担当教科
	学年	コース		
現代文B	3	看護科 コース	4	国語科

使 用 教 科 書 等	出 版 社
標準現代文B	第一学習社

1. 学習の重点目標

学習の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・近代以降の様々な作品に接し、読解力、思考力を養う。 ・漢字、ことばの学習を通して、語句の定着を図る
---------	---

2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

	定期考査	平常点
趣旨・基準	<ul style="list-style-type: none"> ・内容の理解 ・漢字、語句の習得 ・文学史の理解 	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字書取の小テスト ・ノート、課題の提出 ・授業に取り組む姿勢
評価割合	80%	20%

3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期	四	第2部 随想「ワスレナグサ」
	五	【中間考査】
	五 六	評論「思い込みの危険性」
第2学期	七 九	評論「経験の教えについて」 小説「ひよこの眼」 【中間考査】
	十 十一	小説「ひよこの眼」 【期末考査】
	十二 一	小説「バグダッドの靴磨き」 【期末考査】
第3学期	二	まとめ学習

科目名	対 象		単位数	担当教科
	学年	コース		
日本史 A	2	看護科 コース	2	地歴

使用教科書等	出版社
日本史 A 現代からの歴史	山川出版社

1. 学習の重点目標

学習の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・近代史を理解し、今日の日本の基盤を考察する。 ・裏話やエピソードを交えて興味や関心を持たせる。 ・時代背景を考えさせる。
---------	---

2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

	定期考査	平常点
趣旨・基準	各学期毎に、中間考査、期末考査を実施し、その得点で評価する。	<ul style="list-style-type: none"> ・提出物や出席状況、学習状況 ・ノートの取り方、創意工夫
評価割合	80%	20%

3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期	4 ～ 5	<ul style="list-style-type: none"> ・第1章 国際環境の変化と明治維新 1. 19世紀世界の動向と日本
	5 ～ 6	<ul style="list-style-type: none"> 2. 開国と倒幕 期末考査
第2学期	7 ～ 10	<ul style="list-style-type: none"> 2. 開国と倒幕 3. 明治新政府の諸改革と社会の変化
	10 ～ 11	<ul style="list-style-type: none"> 4. 明治初期の外交と反政府運動 期末考査
第3学期	1 ～ 2	<ul style="list-style-type: none"> ・第2章近代国家の成立と国際関係の推移 1. 自由民権運動の展開 2. 立憲体制の成立
	2 ～ 3	<ul style="list-style-type: none"> 2. 立憲体制の成立 3. 日清戦争と国際関係 期末考査

科目名	対 象		単位数	担当教科
	学年	コース		
世界史 A	3	看護科 コース	2	地理歴史

使 用 教 科 書 等	出 版 社
世界史A	東京書籍

1. 学習の重点目標

学習の重点目標	世界史の展開を追いながら、それが現代社会にどのような影響を与え、どのような問題点を発生させたかといった歴史的思考力を養うことを主眼とする。また各地域の文化の多様性・複合性などにも触れながら歴史を大観的にとらえさせる。
---------	--

2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

	定期考査	平常点
趣旨・基準	基本的な歴史事項はもとより、1つ1つの事項の背景に何があるのかを問う。また単なる用語の理解にとどまらず、それぞれの単元の主題がきちんととらえることができているかどうかを確認する。 中間・期末考査を行う。	普段の授業態度・提出物等で評価する。
評価割合	80%	20%

3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期	四 五	第1部 近・現代世界史の背景～諸地域世界とその交流～ 第1章 ユーラシアの諸地域世界 【中間考査】
	五 六	第1章 ユーラシアの諸地域世界 第2章 ユーラシアの交流圏 【期末考査】
第2学期	七 十	第2部 成熟するアジアと世界へ向かうヨーロッパ 第3章 アジア諸帝国の繁栄とヨーロッパ 【中間考査】
	十 十一	第4章 太平洋世界の変容とその波及 第5章 産業化社会の拡大と成熟 【期末考査】
第3学期	十二 一	第6章 アジア諸国の変貌と日本及び学年のまとめ 【期末考査】

科目名	対 象		単位数	担当教科
	学年	コース		
現代社会	1	看護科 コース	2	地歴・公民科

使 用 教 科 書 等	出 版 社
現代社会	東京書籍

1. 学習の重点目標

学習の重点目標	現代社会に対する関心を高め、諸問題について様々な立場を踏まえて主体的に学習できる能力を養うとともに、基礎的な知識の定着を図る。
---------	---

2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

	定期考査	平常点
趣旨・基準	学習した概念や理論を理解し、その知識が定着しているかどうかを定期考査の得点により評価する。	出席状況、授業態度、提出物などで判断する。
評価割合	80%	20%

3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期	4 ・ 5	第1部 わたしたちの生きる社会 ①地球環境と資源・エネルギー ②科学技術の発達と生命 ③情報化の進展と生活 【中間考査】
	5 ・ 6	第2章 日本国憲法と民主政治 1節 民主政治とは 2節 日本国憲法の基本原理 【期末考査】
第2学期	7 ・ 9	3節 日本の政治機構 4節 現代政治の特質と課題 第3章 個人の尊重と法の支配 1節 個人の尊重と法の支配 【中間考査】
	10 ・ 11	第4章 現代の経済と国民福祉 1節 経済のしくみ 2節 変化する日本経済 【期末考査】
第3学期	1 2 ・ 1	3節 豊かな生活の実現 第5章 国際社会と人類の課題 1節 国際経済のしくみと動向 2節 国際政治のしくみと動向
	2	3節 国際社会の現状と課題 【期末考査】

科目名	対 象		単位数	担当教科
	学年	コース		
数学 I	1	看護科	3	数学科

使 用 教 科 書 等	出 版 社
改訂版 新編数学 I	数研出版

1. 学習の重点目標

学習の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・数学の基本的な概念を理解し、数学的な考え方を習得させる。 ・自学自習の習慣をつける。
---------	--

2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

	定期考査	平常点
趣旨・基準	各学期ごとに、中間考査・期末考査を実施し、その得点により評価を行う。	日常の学習態度、プリント・ノート等の提出物及び単元別小テストの結果を点数化し総合的に評価を行う。
評価割合	80%	20%

3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期	4 5	第1章 数と式 第1節 式の計算 第2節 実数
	5 5 7	【中間考査】 第3節 1次不等式 第4節 集合と命題 【期末考査】
第2学期	7 5 1 0	第2章 2次関数 第1節 2次関数とグラフ 第2節 2次関数の値の変化 【中間考査】
	1 0 5 1 2	第3節 2次方程式と2次不等式 【期末考査】
第3学期	1 2 5 3	第3章 図形と計量 第1節 三角比 第2節 三角形への応用 第4章 データの分析 【期末考査】

科目名	対 象		単位数	担当教科
	学年	コース		
数 学 A	2	看護科 コース	3	数学科

使 用 教 科 書 等	出 版 社
新編 数学 I，改訂版新編数 学 A / 3TRIAL 数学 I +A	数研出版

1. 学習の重点目標

学習の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な知識と技能の習得を図り、いろいろな事象を数学的に考察する能力を養う。 ・自学自習の習慣を身につける。
---------	--

2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

	定期考査	平常点
趣旨・基準	各学期ごとに、学習内容の基本的事項について中間考査及び期末考査を実施し、その得点により評価を行う。	日常の授業中の態度や出席状況、問題や課題の提出状況により評価を行う。
評価割合	80%	20%

3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期	4 5	《数学I》 第3章 図形と計量 第1節 三角比 第2節 三角形への応用 【中間考査】
	5 7	第4章 データの分析 《数学A》 第1章 場合の数と確率 第1節 場合の数 【期末考査】
第2学期	7 10	第1節 場合の数 【中間考査】
	10 12	第2節 確率 【期末考査】
第3学期	1 3	第2章 図形の性質 第1節 平面図形 第2節 空間図形 【期末考査】

科目名	対 象		単位数	担当教科
	学年	コース		
数 学 A	3	看 護 科 コース	3	数学科

使 用 教 科 書 等	出 版 社
新編 数学 A 、独自教材	数研出版

1. 学習の重点目標

学習の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な知識・技能の習得を図り、事象を数学的に考察する能力を養う。 自学自習の習慣を身につける。 看護師国家試験対策
---------	--

2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

	定期考査	平常点
趣旨・基準	各学期ごとに、学習内容の基本的事項について中間考査及び期末考査を実施し、その得点により評価を行う。	日常の授業中の態度や出席状況、問題や課題の提出状況により評価を行う。
割合	80%	20%

3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期	4 5	数学A総合演習 基礎数学演習 【中間考査】
	5 7	数学A総合演習 基礎数学演習 【期末考査】
第2学期	7 10	数学A総合演習 基礎数学演習 【中間考査】
	10 12	基礎数学演習 看護師国家試験対策 【期末考査】
第3学期	1 3	看護師国家試験対策 【期末考査】

科目名	対 象		単位数	担当教科
	学年	コース		
物理基礎	1	看護科 科	2	理科

使用教科書等	出版社
高等学校 新物理基礎	第一学習社

1. 学習の重点目標

学習の重点目標	日常生活や社会との関連を図りながら物体の運動と様々なエネルギーへの関心を高め、目的意識を持って観察、実験などを行い、物理学的に探究する能力と態度を育てるとともに物理学の基本的な概念や原理・法則を理解させ科学的な見方や考え方を養う。
---------	---

2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

	定期考査	平常点
趣旨・基準	各学期毎に、中間考査・期末考査を実施し、その得点で評価を行う。ただし、3学期は期末考査のみ実施する。	日常の学習態度、出席状況、課題や提出物の出来具合により評価を行う。
評価割合	80%	20%

3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期	4 5	I章 力と運動 1節 物体の運動 1. 速さと等速直線運動 2. 変位と速度 3. 速度の合成と相対速度 4. 加速度 5. 等加速度直線運動 6. 重力加速度と自由落下 7. 鉛直投げおろし・鉛直投げ上げ 8. 水平投射・斜方投射 【中間考査】 2節 力と運動の法則 1. 力と質量 2. いろいろな力 3. 力の合成・分解と力のつり合い 4. 慣性の法則 5. 力と質量と加速度の関係 6. 運動の第2法則 7. 作用・反作用の法則 8. 摩擦力 9. 運動方程式の利用(1) 10. 運動方程式の利用(2)
	5 7	【期末考査】
第2学期	7 10	II章 エネルギー 1節 仕事と力学的エネルギー 1. 力がする仕事 2. 仕事の原理と仕事率 3. 運動エネルギー 4. 位置エネルギー 5. 力学的エネルギー保存の法則 6. いろいろな運動と力学的エネルギー 【中間考査】 2節 熱とエネルギー 1. 温度と熱運動 2. 熱と熱平衡 3. 熱と仕事 4. エネルギーの変換と保存
	10 12	III章 波動 1節 波の性質 1. 波と振動 2. 波の表し方 3. 波の重ね合わせ 4. 定常波 5. 波の反射 2節 音波 1. 音の速さと3要素 2. 波としての音の性質 3. 弦の固有振動 4. 気柱の固有振動 【期末考査】
第3学期	1 3	IV章 電気 1節 電荷と電流 1. 電荷 2. 電流と電気抵抗 3. 物質と電気抵抗 4. 直流回路 5. 電力と電力量 2節 電流と磁場 1. 磁場 2. 交流の発生と利用 3. 電磁波 3節 エネルギーとその利用 1. 太陽エネルギーの利用 2. 原子力エネルギー 【期末考査】

科目名	対 象		単位数	担当教科
	学年	コース		
生物基礎	1	看護科 コース	2	理科

使 用 教 科 書 等	出 版 社
高等学校 生物基礎	第一学習社

1. 学習の重点目標

学習の重点目標	生物や生物現象への関心を高め、生物学的に探究する能力と態度を育てるとともに生物学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な見方や考え方を養う。
---------	--

2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

	定期考査	平常点
趣旨・基準	各期の考査によって、それぞれの学習範囲の理解度・知識力・考察力を評価を行なう。	日常の授業への取り組みや授業態度、課題等の提出物によって評価を行なう。
評価割合	80%	20%

3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期	4	第1章 生物の特徴 顕微鏡の取り扱い方
	5	1 生物の多様性と共通性 【中間考査】
	5	2 細胞とエネルギー
	5	第2章 遺伝子とその働き
	5	1 遺伝現象と遺伝子
	6	2 遺伝情報の複製と分配 【期末考査】
第2学期	7	3 遺伝情報とタンパク質の合成
	5	第3章 生物の体内環境
	9	1 体液とその働き 2 生体防御 【中間考査】
	10	3 体内環境の維持のしくみ
	11	第4章 バイオームの多様性と分布
第3学期	1	1 生物の多様性とバイオーム
	1	2 バイオームの形成過程 【期末考査】
	2	3 バイオームとその分布
	3	第5章 生態系とその保全 1 生態系 2 生態系のバランスと保全 【期末考査】 (3 生態系の保全)

科目名	対 象		単位数	担当教科
	学年	コース		
化学基礎	2	看護科 コース	3	理科

使用教科書等	出版社
高等学校 改訂 新化学基礎	第一学習社

1. 学習の重点目標

学習の重点目標	物質の性質や反応、あるいは構造を調べることにより物質の特徴を理解し、物質に関する原理・法則を化学的に考察する能力と態度を身につける。
---------	--

2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

	定期考査	平常点
趣旨・基準	各学期毎に、中間考査、期末考査を実施し、その得点で評価を行う。[3学期は期末考査のみ実施]	日常の学習態度、出席状況、課題や提出物の出来具合により評価を行う。
評価割合	80%	20%

3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期	4 5 5	第I章 物質の構成 第1節 物質とその構成要素 ①・② 物質の分離 ③物質を構成する元素 ④元素の確認 ④物質の三態 【中間考査】 ⑥原子のなりたち ⑦同位体とその利用 ⑧原子の電子配置 ⑨元素の周期律と周期表
	5 5 7	第2節 化学結合 ①・②イオン ③イオン結合 ④イオンからできる物質 ⑤・⑥共有結合 ⑦分子の極性 ⑧・⑨イオンからできる物質 ⑩共有結合の結晶 ⑪金属結合と金属結晶
第2学期	7 5 1 0	第II章 物質の変化 第1節 物質質量と化学反応式 ①原子量 ②分子量と式量 ③物質質量と粒子数 ④物質質量と質量 ⑤物質質量と気体の体積 ⑥溶解と濃度 ⑦・⑧化学変化と化学反応式 ⑨・⑩化学反応の量的関係 【中
	1 0 5 1 2	第2節 酸・塩基とその反応 ①酸と塩基 ②酸・塩基の強弱と分類 ③水素イオン濃度とpH ④pHの測定 【期末考査】
第3学期	1 2 5 3	⑤中和と塩 ⑥中和の量的関係 ⑦中和滴定とpHの変化 第3節 酸化・還元反応 ①酸化と還元 ②酸化数 ③酸化剤と還元剤 ④金属のイオン化傾向 ⑤酸化還元反応の利用 ⑥電池 ⑦電気分解 【期末考査】

科目名	対 象		単位数	担当教科
	学年	コース		
生物	2	看護科 コース	2	理科

使用教科書等	出版社
高等学校 生物基礎 / 高等学校 生物	第一学習社

1. 学習の重点目標

学習の重点目標	生物や生物現象への関心を高め、生物学的に探究する能力と態度を育てるとともに生物学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な見方や考え方を養う。
---------	--

2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

	定期考査	平常点
趣旨・基準	各期の考査によって、それぞれの学習範囲の理解度・知識力・考察力を評価を行なう。	日常の授業への取り組みや授業態度、課題等の提出物によって評価を行なう。
評価割合	80%	20%

3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期	4	第3章 生物の体内環境 3 遺伝情報とタンパク質の合成
	5	第4章 バイオームの多様性と分布 2 バイオームの形成過程 3 バイオームとその分布
	5	【中間考査】
	5	第5章 生態系とその保全 1 生態系 2 生態系のバランスと保全 3 生態系の保全
	5	第1章 細胞と分子 1 生体物質と細胞
	6	【期末考査】
第2学期	7	2 細胞膜を介した物質の移動 3 生命現象とタンパク質
	5	第2章 代謝 1 代謝とエネルギー代謝 2 同化
	9	【中間考査】
	10	3 窒素同化 4 異化
	5	5 呼吸
	12	【期末考査】
第3学期	1	第3章 遺伝情報の発現 1 遺伝情報とその発現 2 遺伝子の発現調節 3 バイオテクノロジー
	2	【期末考査】
	3	

科目名	対 象		単位数	担当教科
	学年	コース		
生物	3	看護科 コース	2	理科

使 用 教 科 書 等	出 版 社
高等学校 生物	第一学習社

1. 学習の重点目標

学習の重点目標	自然界の事象を、生物に関わる内容を理解することにより、理科的考察力を身につけ、生物学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な見方や考え方を養う。
---------	--

2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

	定期考査	平常点
趣旨・基準	各期の考査によって、それぞれの学習範囲の理解度・知識力・考察力を評価を行なう。	日常の授業への取り組みや授業態度、課題等の提出物によって評価を行なう。
評価割合	80%	20%

3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期	4	第2章 代謝 4 異化
	5	第3章 遺伝情報の発現 1 遺伝情報とその発現 2 遺伝子の発現調節
	5	3 バイオテクノロジー
	5	第4章 有性生殖
	5	1 減数分裂と受精 2 遺伝子と染色体
	6	
第2学期	7	第5章 動物の発生 1 配偶子形成と受精 2 初期発生の過程 3 細胞の分化と形態形成 4 器官形成と細胞の死
	5	第6章 植物の発生 1 配偶子形成と胚発生
	9	第7章 植物の環境応答 1 植物の環境応答と植物ホルモン 2 植物の環境応答とそのしくみ
	10	第8章 動物の反応と行動 1 刺激の受容と反応 2 動物の行動
	5	第9章 個体群と生物群集 1 個体群 2 生物群集
	11	
第3学期	1	【考査】 第10章 生態系 1 生態系の物質生産 2 生態系と多様性
	5	第11章 生物の進化 1 進化のしくみ 2 生物の起源と生物の変遷
	2	第12章 生物の系統
	2	
	3	

科目名	対 象		単位数	担当教科
	学年	学 科		
体 育	1学年	看護科（男子・女子）	1	保健体育科

使 用 教 科 書 等	出 版 社
Active SPports 2017 [総合版]	大修館書店

1. 学習の重点目標

学習の重点目標	<p>各種の運動の合理的な実践を通して、運動技能を高め、運動の楽しさや喜びを味わうことができるとともに、体の調子を整え体力の向上を図る。</p> <p>公正、協力、責任などの態度を育て、生涯を通じて継続的に運動ができる資質や能力を育てる。</p>
---------	---

2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

項目	運動技能	知識・理解	関心・意欲・態度
趣旨・基準	自己の能力と各種の運動の特性に応じた技能を高める。 体力向上のために運動の合理的な行い方を身に付ける。	運動の意義や必要性を理解する。 運動の特性と合理的な行い方を理解し、その知識を身に付ける。 3学期は中間考査を実施	計画的に、自ら進んで行うことで、運動の楽しさや喜びを味わう。 健康・安全に関心を持ち意欲的に取り組もうとする態度を養う。
評価割合	約50%	約30%	約20%

3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期	4	◇オリエンテーション ◇スポーツテスト①・集団行動
	6	◇高校生体操 ●実技試験
第2学期	7	◇スポーツテスト② ◇体づくり運動 ◇陸上競技 ハードル走 砲丸投げ ●実技試験
	11	◇ハンドボール パス・シュート(ステップ・ジャンプ) 対人練習(2対2・3対3) ●実技試験
第3学期	1	◇体育理論
	2	◆期末考査

科目名	対象		単位数	担当教科
	学年	コース		
体育	2学年	看護科(男・女)	3	保健体育科

使用教科書等	出版社
Active SPports 2016 [総合版]	一橋出版

1. 学習の重点目標

学習の重点目標	<p>各種の運動の合理的な実践を通して、運動技能を高め、運動の楽しさや喜びを味わうことができるとともに、体の調子を整え体力の向上を図る。</p> <p>公正、協力、責任などの態度を育て、生涯を通じて継続的に運動ができる資質や能力を育てる。</p>
---------	---

2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

項目	運動技能	知識・理解	関心・意欲・態度
趣旨・基準	自己の能力と各種の運動の特性に応じた技能を高める。 体力向上のために運動の合理的な行い方を身に付ける。	運動の意義や必要性を理解する。 運動の特性と合理的な行い方を理解し、その知識を身に付ける。 3学期は中間考査を実施	計画的に、自ら進んで行うことで、運動の楽しさや喜びを味わう。 健康・安全に関心を持ち意欲的に取り組もうとする態度を養う。
評価割合	約50%	約30%	約20%

3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期	4	◇オリエンテーション ◇スポーツテスト②
	6	◇陸上競技 ハードル走 砲丸投げ ●実技試験
第2学期	7	◇スポーツテスト① ・ 体づくり運動 ◇ハンドボール パス・ジャンプシュート 対人練習(1対1 ・ 3対2) ・ ゲーム ●実技試験
	10	◇バレーボール パス(アンダーハンドパス ・ オーバーハンドパス) サーブ ・ スパイク ゲーム ●実技試験
第3学期	12	◇バスケットボール パス ・ ドリブル シュート(ランニングシュート ・ ジャンプシュート) 対人練習(1対1 ・ 3対2の攻防) ゲーム ●実技試験
	3	◇体育理論 ◆期末考査

科目名	対 象		単位数	担当教科
	学年	学 科		
体 育	3学年	看護科（男・女）	2	保健体育科

使 用 教 科 書 等	出 版 社
Active SPports 2015 [総合版]	一 橋 出 版

1. 学習の重点目標

学習の重点目標	<p>各種の運動の合理的な実践を通して、運動技能を高め、運動の楽しさや喜びを味わうことができるとともに、体の調子を整え体力の向上を図る。</p> <p>公正、協力、責任などの態度を育て、生涯を通じて継続的に運動ができる資質や能力を育てる。</p>
---------	---

2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

項目	運動技能	知識・理解	関心・意欲・態度
趣旨・基準	<p>自己の能力と各種の運動の特性に応じた技能を高める。</p> <p>体力向上のために運動の合理的な行い方を身に付ける。</p>	<p>運動の意義や必要性を理解する。</p> <p>運動の特性と合理的な行い方を理解し、その知識を身に付ける。</p> <p>3学期は中間考査を実施</p>	<p>計画的に、自ら進んで行うことで、運動の楽しさや喜びを味わう。</p> <p>健康・安全に関心を持ち意欲的に取り組もうとする態度を養う。</p>
評価割合	約50%	約30%	約20%

3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期	4	<ul style="list-style-type: none"> ◇オリエンテーション ◇スポーツテスト② ◇陸上競技 <ul style="list-style-type: none"> 走り幅跳び 砲丸投げ
	6	<ul style="list-style-type: none"> ●実技試験
第2学期	7	<ul style="list-style-type: none"> ◇民踊(体育祭練習) ◇スポーツテスト①・体づくり運動 ◇バレーボール <ul style="list-style-type: none"> パス・サーブ・対人練習 ゲーム ●実技試験
	10	<ul style="list-style-type: none"> ◇バスケットボール <ul style="list-style-type: none"> パス・シュート・対人練習 ゲーム ●実技試験
第3学期	1	<ul style="list-style-type: none"> ◇バスケットボール
	3	<ul style="list-style-type: none"> ゲーム ◇体育理論 ◆期末考査

科目名	対 象		単位数	担当教科
	学年	コース		
音楽 I	1	看護科 コース	2	芸術

使用教科書等	出版社
改訂版 高校生の音楽1	音楽之友社

1. 学習の重点目標

学習の重点目標	音楽の幅広い活動を通して、音楽を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばす。
---------	--

2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

項目	平常点(関心・意欲・態度)	芸術的な感受や表現の工夫	創造的な表現の技能	鑑賞の能力
趣旨・基準	・音楽文化を尊重し、興味関心を高めているか。 ・意欲的主体的に楽曲演奏に取り組んでいるか。	・音楽のよさや美しさを感じ取り、創造的に表現の工夫をしているか。 ・実技テストの内容 ・演奏発表の内容	・創造的な音楽表現の技能を身につけているか。 ・実技テストの内容 ・演奏発表の内容	・それぞれの音楽の特徴に対し理解を深め鑑賞できているか。 ・レポートの内容 ・演奏発表の内容
評価割合	20%	30%	30%	20%

3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期	4 5 6	歌唱・・・校歌等、季節を歌う 器楽・・・リコーダー基礎 鑑賞・・・ミュージカルについて 楽典・・・音名・音程①
	7 8 9 10 11	歌唱・・・季節、世界を歌う 器楽・・・リコーダーソロ 鑑賞・・・ジャズについて 楽典・・・音程②
第3学期	1 2 3	歌唱・・・モーツァルトを歌う。 器楽・・・リコーダー2重奏 鑑賞・・・モーツァルトについて

科目名	対 象		単位数	担当教科
	学年	コース		
美術 I	1	看護科 コース	2	芸術

使 用 教 科 書 等	出 版 社
高校美術1	日本文教出版

1. 学習の重点目標

学習の重点目標	造形的な創造活動を通して美的体験を豊かにし、創造することの楽しさ、完成したときの喜びを感じさせる。
---------	---

2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

項目	関心・意欲・態度	芸術的な感受や表現の工夫	創造的な表現の技能	鑑賞の能力
趣旨・基準	①美術上の幅広いジャンルに対して興味関心を高めているか。②主体的に制作に取り組んでいるか。③制作活動への参加の仕方や態度。	①絵画、デザイン等の特質知覚し、美術の良さ、美しさを個性豊かに表現の工夫をしているか。②実技、作品内容で評価。	①イメージを個性豊かに表現できているか。②実技、作品内容で評価。	①多様な美術や美術文化に対する理解を深め鑑賞できているか。②レポートの内容。美術作品の良さや美しさを味わっているか。
評価割合	20%	30%	30%	20%

3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期	4 5	ミーティング デザイン…………レタリング
	5 7	デザイン…………グラデーション 絵画…………人物画 着彩 絵画…………クロッキー
第2学期	7 10	絵画…………クロッキー 絵画…………風景画 着彩 デザイン…………立体造形(紙)
	1 1 1 2	絵画…………点描画 工芸…………ステンドグラス 絵画…………クロッキー
第3学期	1 1 3	工芸…………砂絵 絵画…………クロッキー
	2 3	工芸…………篆刻(印) 篆刻(彫刻) 絵画…………クロッキー

科目名	対 象		単位数	担当教科
	学年	コース		
コミュニケーション英語 I	1	看護科 コース	3	英語

使 用 教 科 書 等	出 版 社
Grove English Commumnication I	文英堂

1. 学習の重点目標

学習の重点目標	①易しい英語の文章を理解する能力を養う。 ②それに必要な基本的文法及び構文を学習する。
---------	--

2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

	定期考査	平常点
趣旨・基準	各学期毎に、原則として中間・期末考査を実施し、その得点で評価を行う。	日常の学習態度、出席状況、課題や提出物、小テストのでき具合により評価を行う。
評価割合	80%	20%

3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期	四・五月	Lesson 1 Omotenashi : The Spirit of Japan Lesson 2 Why Is That So?
	五・六月	Lesson 3 The Bento Goes International Lesson 4 Owen and Mzee: An Amazing Friendship
第2学期	七・十月	Lesson 5 The Impossible Is Possible Lesson 6 Eric Carle : How He Creates His Art
	十、十一月	Lesson 7 The Netherlands - Living with Water Lesson 8 Collective Intelligence
第3学期	十二・一月	Lesson 9 10 Billion Lesson 10 One Child , One Teacher , One Book and One Pen

科目名	対 象		単位数	担当教科
	学年	コース		
コミュニケーション英語Ⅱ	2	看護科 コース	3	英語

使 用 教 科 書 等	出 版 社
Grove English Commumnication Ⅱ	文英堂

1. 学習の重点目標

学習の重点目標	①易しい英語の文章を理解する能力を養う。 ②それに必要な基本的文法及び構文を学習する。
---------	--

2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

	定期考査	平常点
趣旨・基準	各学期毎に、原則として中間・期末考査を実施し、その得点で評価を行う。	日常の学習態度、出席状況、課題や提出物、小テストのでき具合により評価を行う。
評価割合	80%	20%

3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期	四・五月	Lesson 1 Hello, Hollywood! Lesson 2 Asian Culture and Life
	五・六月	Lesson 3 A Penguin Called Happy Feet Lesson 4 The Spirit Is in My Body
第2学期	七・十月	Lesson 5 Guerrilla Gardening Lesson 6 Iceland
	十、十一月	Lesson 7 Which Jam Would You Like? Lesson 8 Paper Building
第3学期	十二・一月	Lesson 9 Salty Coffee Lesson 10 Lunch Delivery in Mumbai

科目名	対 象		単位数	担当教科
	学年	コース		
コミュニケーション英語Ⅱ	3	看護科 コース	3	英語

使 用 教 科 書 等	出 版 社
Grove English Communication Ⅱ	文英堂

1. 学習の重点目標

学習の重点目標	①コミュニケーションへの関心・意欲・態度を養う。 ②情報や考えを的確に理解する。 ③自分の意見や考えを適切に表現する。
---------	---

2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

	定期考査	平常点
趣旨・基準	各学期毎に、原則として中間・期末考査を実施し、その得点で評価を行う。 試験問題は、授業で学習した内容を中心に出题する。	日常の学習態度、出席状況、課題や提出物、小テストのでき具合により評価を行う。
評価割合	80%	20%

3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期	4 ~ 5	Lesson 8 Paper Building
	5 ~ 7	Lesson 9 Salty Coffee
第2学期	7 ~ 10	Lesson 10 Lunch Delivery in Mumbai
	1 0 ~ 1 2	Lesson 11 How Are Musical Notes Produced?
第3学期	1	Lesson 12 A Change in Climate

科目名	対 象		単位数	担当教科
	学年	コース		
家庭基礎	1	看護科 コース	2	家庭科

使 用 教 科 書 等	出 版 社
家庭基礎 自立・共生・創造	東京書籍

1. 学習の重点目標

学習の重点目標	人の一生と家族・福祉、衣食住、消費生活などに関する基礎的・基本的な知識と技術を修得させ、家庭生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。
---------	--

2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

項目	関心・意欲・態度	思考・判断	技術・表現	知識・理解
趣旨・基準	家族・福祉・衣食住・消費生活などについて関心を持ち、意欲的に取り組むとともに、実践的な態度を身につけている。授業態度で評価。	家族・福祉・衣食住・消費生活などについて見直し、課題を見つけ、その理解を目指して思考を深めている。提出物で評価。	家族・福祉・衣食住・消費生活などに関する基礎的・基本的な技術を身につけている。実習で評価。	家族・福祉・衣食住・消費生活などに関する基礎的・基本的な知識を身につけている。定期考査で評価。
評価割合	約20%	約25%	約15%	約40%

3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期	4 5	第5章 食生活を作る 食生活について考える 食事と栄養・食品 食生活の安全と衛生
	5 7	生涯の健康・食生活 調理の基礎 調理実習 期末考査
	7 10	第2章 子どもと共に育つ 子どもの育つ力を知る 親として共に育つ
第2学期	10 11 12	第6章 衣生活をつくる 被服の役割を考える 期末考査
	1 2 3	第7章 住生活を営む 住生活について考える 住生活の計画と選択 第8章 経済生活を営む 職業生活を設計する 期末考査

科目名	対 象		単位数	担当教科
	学年	コース		
看護情報処理	3	看護科 コース	2	看護科

使 用 教 科 書 等	出 版 社
新版 看護情報処理	実教出版

1. 学習の重点目標

学習の重点目標	情報機器の活用に向けた基礎能力の習得を目指す。 看護現場における情報システムの理解を深める。
---------	---

2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

項目	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
趣旨・基準	情報社会に関心をもち、看護の問題を解決するために進んで情報および情報技術を活用しようとする。授業態度、出席状況で評価をする。	情報活用の方法を工夫したり、改善したりするとともに、情報モラルをふまえた適切な判断をする。授業ノート、課題レポート等により評価をする。	情報の収集・選択・処理を適切に行うとともに、情報を目的に応じて表現する。課題作品、発表により評価をする。	情報および情報技術を活用するための知識を身につけ、情報の意義や役割を理解している。各学期毎に実施する定期考査で評価をする。
評価割合	約20%	約20%	約20%	約40%

3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期	4	1 高度情報通信社会とコンピュータ 2 高度情報通信社会への対応のしかた 課題・ルールとマナー3 コンピュータの機能 ハードウェア ソフトウェア
	5 7	4 情報の処理 日本語ワードプロセッサ
第2学期	7	4 情報の処理 表計算ソフト 画像処理ソフト
	5 1 2	5 情報の収集・処理・発信 情報の収集 プレゼンテーションソフトを利用した情報の発信 電子メールソフトを利用した情報の受信・送信
第3学期	1 2	6 看護とコンピュータ 看護におけるコンピュータの活用 病院における看護情報システム 地域医療における看護情報ネットワーク
	5 3	個人情報保護

科目名	対 象		単位数	担当教科
	学年	コース		
人体と看護	1	看護科 コース	2	看護

使 用 教 科 書 等	出 版 社
人体と看護 新看護学1－人体のしくみと働き	文部科学省 医学書院

1. 学習の重点目標

学習の重点目標	
---------	--

2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

	定期考査	平常点
趣旨・基準	筆記試験	授業態度、提出物
評価割合	80%	20%

3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期	4・5	①人体の構成 ②細胞からみた人体 ③骨格系 中間考査
	6・7	③骨格系 ④筋系 ⑦血液系 期末考査
第2学期	8・9	⑧生体防御系 ⑨循環系 ⑩呼吸系 中間考査(10月3～6日の期間に実施)
	10・11	⑤神経系 ⑥感覚系 ⑪消化・吸収系 期末考査
第3学期	12	⑫内分泌系
	1・2	⑬腎尿系 ⑭生殖系 期末考査

科目名	対 象		単位数	担当教科
	学年	コース		
基礎看護	1	看護科 コース	8	看護

使用教科書等	出版社
基礎看護 新看護学6・7	文部科学省 医学書院

1. 学習の重点目標

学習の重点目標	1. 看護の意義と保健・医療・福祉における看護の役割を理解する 2. 日常生活の援助等看護に関する基礎的、基本的な知識と技術を習得させる 3. 看護を適切に行う能力と態度を育てる
---------	---

2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

	定期考査	平常点
趣旨・基準	ペーパーテスト 実技テスト	確認テスト、授業態度 レポート(課題) 実技練習状況
評価割合	80%	20%

3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期	4 5 7	1. 看護とは 2. 看護の対象としての人間 中間テスト 期末テスト
	4 5 7	1. オリエンテーション 2. 病床環境の調整 中間テスト 3. 衣生活 4. 姿勢・体位と運動 期末テスト
第2学期	7 5 1 2	3. 看護と保健・医療・福祉 4. 看護活動 5. 看護管理・看護研究 中間テスト 期末テスト
	7 5 1 2	5. 身体の清潔 10. 与薬(内服) 期末テスト 6. 食事 7. 排泄 中間テスト 8. バイタルサイン 9. 無菌法と院内感染 10. 診療・検査と看護
第3学期	1 2 3	6. 職業としての看護 7. 看護の変遷 期末テスト
	1 2 3	11. 与薬(内服・注射) 16. 学習、生産的な活動、レクリエーション 12. 包帯法 期末テスト 13. 浣腸 14. 褥法 15. 睡眠と休息

科目名	対 象		単位数	担当教科
	学年	コース		
看護基礎医学(人体と看護)	2	看護科 コース	1	看護科

使用教科書等	出版社
高等学校用 人体と看護 新看護学2 専門基礎[2] 感染予防	医学書院

1. 学習の重点目標

学習の重点目標	①病原微生物の種類と特徴、免疫の仕組み等を理解させ、健康について学ばせる。
---------	---------------------------------------

2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

	定期考査	平常点
趣旨・基準	中間・期末の定期考査	小テスト
評価割合	80%	20%

3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期	4 5	微生物の基礎知識 <中間考査>
	5 7	細菌 <期末考査>
第2学期	1 0	ウイルス <中間考査>
	1 2	真菌 <期末テスト>
第3学期	3	原虫 <期末テスト>

科目名	対 象		単位数	担当教科
	学年	コース		
疾病と看護(病理・薬理)	2	看護科 コース	2	看護科

使 用 教 科 書 等	出 版 社
疾病と看護 新看護学2専門基礎[2]疾病のなりたち 新看護学3専門基礎[3]薬物と看護	文部科学省・医学書院

1. 学習の重点目標

学習の重点目標	<p><病理>看護を行うために必要な病理および病態生理について理解する。</p> <p><薬理>薬理に関する基礎的な内容を理解させ、適用について知識を習得する。</p>
---------	--

2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

	定期考査	平常点
趣旨・基準	定期考査(筆記試験)	単元終了時毎に確認テストを実施し、平均する。 授業態度、提出物も加味する。
評価割合	80%	20%

3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期	4 5 6	病理) 疾病の成り立ち 疾病のなりたちと病理学 疾病のなりたち 薬理) 薬物に関する基礎知識 抗感染症薬・抗悪性腫瘍薬・免疫抑制薬・末梢神経系に作用する薬物・中枢神経系に作用する薬物
	7 8 9	病理) 疾病のなりたち おもな疾病のなりたち 薬理) 抗アレルギー薬・抗炎症薬・解熱鎮痛薬・痛風治療薬・心臓・血管・血液系に作用する薬物
第3学期	1 2 3	病理) おもな疾病のなりたち 薬理) 呼吸器・消化器系に作用する薬物・薬物中毒とその処置

科目名	対 象		単位数	担当教科
	学年	コース		
看護基礎医学(生活と看護)	2	看護科 コース	1	看護

使 用 教 科 書 等	出 版 社
看護基礎医学1	教育出版

1. 学習の重点目標

学習の重点目標	人間を取り巻く環境要因と健康との関わりを取り上げ、健康を保持増進させる為には環境の保全が大切であることを学ぶと共に個人及び集団の健康水準に影響を及ぼす要因について理解する。
---------	--

2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

	定期考査	平常点
趣旨・基準	ペーパーテスト	確認テスト 課題レポート 授業態度
評価割合	80%	20%

3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期		1. 生活環境と健康 1) 生態系の中の人間 2) 生活環境と健康 中間テスト 2) 生活環境と健康 3) 環境因子と健康 4) 水 期末テスト
		5) 空気 6) 環境の管理 中間テスト 7) 衣食住と健康 期末テスト
第3学期		2. 人々の生活と健康 1) 生活行動と健康 2) 社会の変化と人々の健康 3) 統計 期末テスト

科目名	対 象		単位数	担当教科
	学年	コース		
基礎看護	2	看護科 コース	2	看護

使 用 教 科 書 等	出 版 社
基礎看護 新看護学8	文部科学省 医学書院

1. 学習の重点目標

学習の重点目標	1. 看護の意義と保健・医療・福祉における看護の役割を理解する 2. 日常生活の援助等看護に関する基礎的、基本的な知識を習得させる 3. 看護を適切に行う能力と態度を育てる
---------	--

2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

	定期考査	平常点
趣旨・基準	ペーパーテスト	確認テスト 授業態度 レポート(課題)
評価割合	80%	20%

3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期	4 5 6	患者と家族の理解 薬物療法(吸入・酸素吸入) 学習、生産的な活動、レクリエーション 主要な症状を示す患者の看護
	7 8 9 10 11 12	疾病の経過と患者の看護 主要な症状を示す患者の看護
第3学期	1	外来及び入退院時の看護
	2 3	主要な症状を示す患者の看護
	4	主要な症状を示す患者の看護

科目名	対 象		単位数	担当教科
	学年	コース		
成人看護	2	看護科 コース	2	看護科

使 用 教 科 書 等	出 版 社
成人看護 成人看護[1] 成人看護総論/呼吸器/循環器/消化器	文部科学省 医学書院

1. 学習の重点目標

学習の重点目標	成人期にある対象の生活、保健および疾病について理解させ、成人看護に関する知識と技術を習得させるとともに、その看護を行うために必要な基礎的な能力と態度を育てる。
---------	---

2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

	定期考査	平常点
趣旨・基準	筆記試験	授業態度、ノート等提出状況、小テスト
評価割合	80%	20%

3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期	4	臨実 I a: 成人看護総論 臨実 I b: 呼吸器疾患患者の看護、実習について 成人看護: 循環器疾患患者の看護
	5	
	6	
第2学期	7	臨実 I a: 外科的治療・処置を受ける患者の看護 臨実 I b: 呼吸器疾患患者の看護、実習について 成人看護: 循環器・消化器疾患患者の看護
	8	
	9	
第3学期	1	臨実 I a: 内科的治療・処置を受ける患者の看護 臨実 I b: 呼吸器疾患患者の看護 成人看護: 消化器疾患患者の看護
	2	
	3	

科目名	対 象		単位数	担当教科
	学年	コース		
老年看護	2	看護科 コース	2	看護科

使 用 教 科 書 等	出 版 社
高等学校用老年看護 新看護学13 老年看護	文部科学省 ・ 医学書院

1. 学習の重点目標

学習の重点目標	高齢者の加齢に伴う身体的, 精神的, 社会的特徴について理解し, 日常生活の障害や疾患をもつ高齢者の援助を学ぶ。
---------	--

2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

	定期考査	平常点
趣旨・基準	中間考査40点 期末考査40点	小テスト 授業態度 課題提出状況
評価割合	80%	20%

3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期	4 5	高齢者の理解 高齢者を取り巻く社会と社会システム 実習記録指導
	5 6 7	高齢者の暮らしを支える看護の視点 高齢者の暮らしを支える看護の実際 (生活環境・姿勢と動作・食生活と栄養・排泄・清潔・衣生活・運動と睡眠・休息) 実習記録指導
第2学期	7 8 9 10	高齢者が豊かに生きるために 高齢者の暮らしの場と看護
	10 11 12	治療・処置を受ける高齢者の看護
第3学期	1 2 3	高齢者を取り巻く社会と社会システム 高齢者が豊かに生きるために

科目名	対 象		単位数	担当教科
	学年	コース		
看護臨地実習(基礎)	2	看護科 コース	3	看護科

使 用 教 科 書 等	出 版 社

1. 学習の重点目標

学習の重点目標	健康障害により日常生活が規制されている対象の身体的・精神的・社会的特徴について理解させ、看護活動の基礎となる知識・技術・態度を養う。
---------	--

2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

	臨床評価	実習記録評価
趣旨・基準	臨地実習評価の手引きにそっての臨床側の評価	実習記録評価の手引きにそっての学校側の評価
評価割合	40%	60%

3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期		
第2学期	1 1	実習要項にそって病院で実習
第3学期		

科目名	対 象		単位数	担当教科
	学年	コース		
看護臨池実習(老年)	2	看護科 コース	1	看護科

使 用 教 科 書 等	出 版 社

1. 学習の重点目標

学習の重点目標	高齢者の加齢に伴う身体的・精神的・社会的特徴について理解させ、高齢者に対する適切な看護を行うための能力と態度を養う。
---------	--

2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

	臨床評価	実習記録評価
趣旨・基準	臨池実習評価の手引きにそっての臨床側の評価	実習記録評価の手引きにそっての学校側の評価
評価割合	40%	60%

3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期		
第2学期	9	実習要項にそって介護老人福祉施設、介護老人保健施設で実習
第3学期		

科目名	対 象		単位数	担当教科
	学年	コース		
人体と看護(栄養)	3	看護科 コース	1	看護科

使用教科書等	出 版 社
高等学校用 人体と看護・新看護学3「専門基礎3」	文部科学省・医学書院

1. 学習の重点目標

学習の重点目標	1. 生命維持のための栄養の生理と食事療法の基礎的な内容について理解する。
---------	---------------------------------------

2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

	定期考査	平常点
趣旨・基準	筆記試験	単元終了時毎に確認テストを実施し、平均する。授業態度、提出物も加味する。
評価割合	80%	20%

3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期	4 5 6	①食生活・栄養と看護 ②栄養素の種類とはたらき(タンパク質、脂質)
	7 8 9	①栄養素の種類とはたらき(糖質、食物繊維、ビタミン、ミネラル、水)
第2学期	10 11 12	②食物の消化と吸収 ③エネルギーの摂取と消費
	1 2 3	①エネルギーの摂取と消費 ②日本人の食事摂取基準

科目名	対 象		単位数	担当教科
	学年	コース		
疾病と看護(病態)	3	看護科 コース	2	看護

使 用 教 科 書 等	出 版 社
疾病と看護 成人看護[2]、成人看護[3]	文部科学省 医学書院

1. 学習の重点目標

学習の重点目標	看護を行うために必要な疾病の成り立ちと回復の過程に関する基礎的な知識を習得する。
---------	--

2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

	定期考査	平常点
趣旨・基準	筆記試験	単元終了後に確認テストを実施し、平均する。 授業態度、提出物なども加味する。
評価割合	80%	20%

3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期	4 5 6	腎泌尿器疾患患者の看護
第2学期	7 8 1 2	腎泌尿器疾患患者の看護
第3学期	1	血液疾患患者の看護

科目名	対 象		単位数	担当教科
	学年	コース		
生活と看護(精神保健・保健医療)	3	看護科 コース	2	看護

使 用 教 科 書 等	出 版 社
看護学入門13巻(精神看護) 看護学5 専門基礎5(保険医療福祉のしくみ 看護と法律)	メヂカルフレンド社 医学書院

1. 学習の重点目標

学習の重点目標	①心の健康・発達について理解する②精神保健活動の概要について理解する③精神障害者の看護について理解する 社会保障及び社会福祉制度の概要、保険、医療、福祉の連携の重要性を理解する。また、社会資源を有効活用して支援できる基礎的な能力を育てる
---------	---

2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

	定期考査	平常点
趣旨・基準	筆記試験	単元終了後に確認テストを実施し、平均する。 授業態度、提出物なども加味する。
評価割合	80%	20%

3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期		精神看護とは 第1章:心の健康 第2章:心の発達 健康と保健・医療・福祉 公衆衛生と保健のしくみ 医療のしくみ 社会保障と医療のしくみ
		第3章:性の発達と健康 第4章心の動きと精神保健 精神障害者の看護 看護関係の法律を学ぶにあたって 看護職員のための法 医事法 医療と看護の費用に関する法 保健衛生法
第3学期		精神障害者の看護 薬務法 福祉・生活・社会基盤に関する法 環境衛生法

科目名	対 象		単位数	担当教科
	学年	コース		
成人看護	3	看護科 コース	4	看護科

使 用 教 科 書 等	出 版 社
成人看護(10)(11)(12) ゴードン博士の看護診断アセスメント指針	医学書院 照林社

1. 学習の重点目標

学習の重点目標	<p>1 健康上の問題・疾患(脳神経、内分泌・代謝疾患、感覚器、運動器疾患)をもつ成人期にある対象の回復への援助の方法について学ばせる。</p> <p>2 ゴードンの機能的健康パターンに基づいた看護過程の展開を行うための、基本的な知識を学ばせる。</p>
---------	---

2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

	定期考査	平常点
趣旨・基準	中間・期末考査で知識の理解について評価する。	小テスト、課題レポート、提出物、授業態度にて評価する。
評価割合	80%	20%

3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期	4 5 6	脳・神経疾患患者の看護 内分泌・代謝患者の看護 看護過程
	4 5 6	
第2学期	7 8 9	脳・神経疾患患者の看護 内分泌・代謝患者の看護 運動器疾患患者の看護 感覚器の看護 看護過程
	7 8 9	
第3学期	1 2 3	感覚器の看護 運動器疾患患者の看護 看護過程
	1 2 3	

科目名	対 象		単位数	担当教科
	学年	コース		
母性看護	3	看護科 コース	1	看護科

使 用 教 科 書 等	出 版 社
母子看護 新看護学14 母子看護	文部科学省 医学書院

1. 学習の重点目標

学習の重点目標	母性・婦人科看護に関する知識と技術を習得させ、その看護を行うために必要な基礎的な能力と態度を育てる。
---------	--

2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

	定期考査	平常点
趣旨・基準	中間考査40点、期末考査40点として評価する。	単元毎の小テストを20点として評価する。
評価割合	80%	20%

3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期	4 ～ 5	母性看護概論 中間考査
	5 ～ 7	ライフサイクル各期の特徴 母性の看護(妊娠の看護)
第2学期	8 ～ 9	母性の看護(分娩・産褥の看護) 中間考査
	10 ～ 12	妊娠・分娩・産褥の異常と看護 新生児期の看護 期末考査
第3学期	1 ～ 3	女性生殖器疾患患者の看護 期末考査

科目名	対 象		単位数	担当教科
	学年	コース		
小児看護	3	看護科 コース	1	看護科

使 用 教 科 書 等	出 版 社
母子看護 新看護学14 母子看護 ナーシング・グラフィカ 小児の発達と看護	文部科学省 医学書院

1. 学習の重点目標

学習の重点目標	小児の特質、生活、保健及び疾病について理解し、小児の看護に関する知識と技術を習得するとともに、その看護を行うために必要な基礎的な能力と態度を身につける。
---------	--

2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

	定期考査	平常点
趣旨・基準	1. 授業内容の理解 2. 中間考査40点・期末考査40点のペーパーテスト	1. 単元ごとの小テストを20点として評価する。
評価割合	80%	20%

3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期	4月	第1章 小児看護概論
	5月	A. 子どもとは B. 小児看護とは C. 小児看護を取り巻く環境
	5月	小児看護の基礎 A.子どもの成長・発達と生理
	7月	中間考査
第2学期	8月	第2章 小児看護の基礎
	8月	A. 子どもの成長・発達と生理
	9月	B. 子どもの成長・発達と生理
	9月	中間考査
	10月	C. 子どもの栄養
	11月	D. 子どもの養護としつけ
	12月	E. 疾病の予防と予防接種
	12月	期末考査
第3学期	1月	F. 子どもの精神保と社会
	1月	G. 子どもと社会 小児看護の基礎技術 母子保健の動向
	1月	期末考査

科目名	対 象		単位数	担当教科
	学年	コース		
精神看護	3	看護科 コース	1	看護科

使 用 教 科 書 等	出 版 社
高等学校用 精神看護、看護学入門 精神看護 精神看護の基礎	文部科学省、メヂカルフレンド社 医学書院

1. 学習の重点目標

学習の重点目標	1. 精神の構造と機能を理解し、健康レベルと障害との関連や精神の不健康状態について理解するための知識を養う。
---------	--

2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

	定期考査	平常点
趣旨・基準	1. 授業内容の理解 2. 中間考査40点・期末考査40点のペーパーテスト	1. 単元ごとの小テストを20点として評価する。
評価割合	80%	20%

3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期	4 5 7	1. 精神の健康と看護 2. 精神障害者の診療
	9 5 1 2	3. 主な精神障害(疾患)と治療
第3学期	1 月	4. 精神障害者の看護

科目名	対 象		単位数	担当教科
	学年	コース		
看護臨地実習(基礎)	3	看護科 コース	2	看護科

使 用 教 科 書 等	出 版 社

1. 学習の重点目標

学習の重点目標	看護の基礎的要素を基盤とした日常生活の援助活動が実践できる能力を養う。 対象を身体的・精神的・社会的側面から総合的に理解する。
---------	--

2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

	定期考査	平常点
趣旨・基準	臨地実習評価の手引きにそって臨床側の評価	実習記録評価の手引きにそって学校側の評価
評価割合	40%	60%

3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期	6 5 7	実習要項にそって病院実習
第2学期		
第3学期		

科目名	対 象		単位数	担当教科
	学年	コース		
看護臨地実習(成人)	3	看護科 コース	2	看護科

使 用 教 科 書 等	出 版 社

1. 学習の重点目標

学習の重点目標	成人期にある対象を総合的に理解し看護活動の基礎となる知識・技術・態度を習得する。
---------	--

2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

	定期考査	平常点
趣旨・基準	臨地実習評価の手引きにそって臨床側の評価	実習記録評価の手引きにそって学校側の評価
評価割合	40%	60%

3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期	6 7	実習要項にそって病院実習
第2学期		
第3学期		